白鳥台地区の学校教育に関する地域住民説明会　質疑内容

日時：令和４年 11 月 11 日(金) 18：30～、令和４年 11 月 12 日（土）　10：00～
場所：室蘭市立白蘭小学校　体育館（両日とも）

●令和４年 11 月 11 日（金）　18：30～19：25　【17 名参加】

1 教育委員会 自己紹介
2 教育部長 挨拶
3 市教委からの説明
・児童生徒数の推計について（西舘次長）
・これからの学校づくり検討委員会の報告内容と義務教育学校について（高田教育指導参事）
・義務教育学校のメリットとデメリットについて（高田教育指導参事）

4 質疑

<u>① 服装について</u>

現在は、小学校１年生から６年生までは自由な服装で、中学校になると制服という形だが、１つの学校になった際の学校の服装については、どのように考えているのか。

回答 これから検討する。大沼（岳陽学校）の例では、小学生は私服で中学生は制服。

<u>② 人口推計について</u>

白鳥台地区の今後の人口について、市ではどのように検討しているのか。今後も公営住宅の建て直し等あるとは思うが、今の推計でいったら最終的にどうなるのかという点も含めてご教示いただきたい。

回答 本市教委としては世帯数と児童数の推移を推計している。白鳥台地区の公営住宅の整備などは別の部署となる。また、これも別の部署となるが、白鳥台地区で交通体系のモデル事業の実施や、工大の専門性の高い先生がこの地区に関しての調査等を実施しているため、今後、白鳥台地区の方向性が出てくると推察している。現在、本市教委で把握している児童生徒数等を基に作成しており、ご理解願いたい。

<u>③ 部活動について</u>

デメリットの中で、部活動についても書かれていたが、これから、市全体の学校の中で、将来的には合同チームなどを推進していくといった考えはあるのか。

回答 国では、地域へお願いしていくという方針。現在合同部活動を一部やっているところもある。全体を考えると、例えば外でやっている部活動では、一部の中学校以外は一つにまとめないと継続が難しいと内部的に検討しているが、その手法が難しく、課題となっている。ただ、近い将来には一つの学校で一つの部活と言う形にならざるを得ないのではと、内部的には検討中であり回答は困難だが、例えば A 中学校ではサッカー、B 中学校では野球といったイメージを皆さんや先生方と共有して行きたい。

④ 義務教育学校の開始予定時期について

回答 正式に決定していないが、子どもが減少している現状を鑑み、早めのスタートを考えている。例えば英語教育に力を入れるなど、特色ある学校運営により他地区からの転入も少しは期待できる。時期は、最短で令和７年スタートと考えているが、仮に正式に義務教育学校で、との決定をさせて頂いた場合は、はっきりとした時期をお示し出来ると考えている。

⑤ 他地区との統合について

縦のつながりが大切なのはわかるが、横のつながりも大切と考えていて、他校との統合に関して検討委員会の中で議論になったということだが、どのような議論になったのか教えていただきたい。

回答 これからの学校づくり検討委員会の中で、横のつながりとして考えられる港北中や蘭北小との統合の検討という話は出たが、遠距離通学による児童生徒の負担等を考慮すると、この地区は横のつながりを作るのが非常に難しい地域であるという議論があり、義務教育学校の方向性の方が子どもたちにとって良いのではというと言うこととなった。また、横のつながりは、先ほどの合同部活動も含め、今後全市的に中学校の部活動については検討していくことになるが、まずは、縦の繋がりを重視し、地域と一体となった教育を進めて行くには（この地区が）一番作りやすい地域ではとの提言があった。

⑥ 上級生が下級生の見本となる件について（意見）

上級生がお手本となって良い学校になると話しがあり、そこは期待しているところではあるが、その逆もまた然りで、中学生は多感になる時期で多少乱れてくる子も出てくるのではないか。このことが小学生に悪影響がないようにお願いしたい。

回答 大沼（岳陽学校）では自己有用感が高い傾向だ。義務教育学校へ統合となる前と比較して高くなっているとのこと。異学年との関わりなどを通じて育てていきたい。

⑦ 交通安全について

特に低学年の児童については、左右を見ずに走り出すなどの行動が見受けられ、また車で親が送る場合、どこにでも車を止めるといった事も見受けられる。全国的にも小学生の交通事故も発生していることから、親に対しても指導を行っていただければありがたい。

回答 子どもの命、安全に関わること。しっかり対応して参りたい。お知らせ文書や懇談などを通して啓発すると共に、家庭・地域・学校が一体になって、取り組んでいきたい。

⑧ 以前より義務教育学校を想定していたのか

白蘭小は開校して間もないが、同小を建設する時点で義務教育学校にするといった想定はあったのか。

回答 白蘭小は H30 に学校適正配置計画に沿って３小学校の統合により開校したが、計画策定当時には義務教育学校が制度化される前だったため考えてはいなかった。確かに開

校して 5 年目と日が浅いのは承知しているが、今後の子どもたちの学習環境を考慮し、今回検討を進めているところ。

⑨ 施設整備について

現在、白蘭小の 1 年生は 30 人おり、教室内に余裕がない状態となっている。今後、学年が上がるにつれて机や椅子が大きくなることから、子どもたちの学習環境に支障が生じないよう整備してもらいたい。

回答 施設の経過年数を考慮し、仮に白蘭小で整備する場合、１～9 年生が入ることを想定して、特に中学校の場合は特別教室数の増加が見込まれることから、その整備などを念頭に、学校施設の配置について進めていきたい。

⑩ 発達障害に対する相談体制について

昨年、白蘭小に転校してきた。子どもに軽度の発達障害があるが、以前住んでいた地域よりも発達障害に関しての相談窓口が少ないように感じる。今の学校では、担任の先生くらいしか相談できる人がいない。以前の地域は、発達支援コーディネーターがおり、担任とコーディネーターと保護者の 3 者で対面やお手紙等対応してもらっていた。室蘭市ももう少し体制を整えていただきたい。

回答 学校には特別支援のコーディネーターを配置しており、また、市教委 学校教育課内にも就学相談員を 2 名配置しておることから、市教委へも気軽にご相談いただければ、学校とつなぐなどの相談体制を構築していくことができる。

●令和 4 年 11 月 12 日（土）　10：00～11：05　【21 名参加】

1～3 まで、11 日と同様

4 質疑

① これからの学校づくり検討委員会の委員について

検討委員会のメンバーの中に、複式学級を経験した方はいたのか。

回答 教員のメンバーについては、校長会から推薦を受けた教員がいたが、複式経験者の教員は恐らくいなかったと思う。

② スクールバスについて

2 キロ以内がスクールバスの対象という考えは変わらないのか。

回答 基本的には小学校は 2 キロ、中学校は 3 キロの通学圏内は徒歩での通学という考えは変わっていない。

ただ、統合先の学校の場所が変わることがあれば、（考え方は変わらないが）対象者について改めて距離は計測していく予定。

③ 白鳥台地区の人口について

児童生徒が減少する前提で色々と検討されているが、白鳥台地区の人口を増やすような事は考えていないのか。

回答 全国的な人口減少の中でなかなか難しい問題。別部署ではあるが、人口、街づくりに関わる検証をしているところ。また、これも別の部署となるが、白鳥台地区で交通体系のモデル事業の実施や、工大の専門性の高い先生がこの地区に関しての調査等を実施しているため、今後、白鳥台地区の方向性が出てくると推察している。

本教育委員会としては、児童生徒の学習環境整備の向上に資する施策の実現に引き続き努めていくので、ご理解願いたい。

④ 1日目の住民説明会の質疑内容について

1日目の住民説明会での質問と教育委員会の回答について教えていただきたい

回答 （1日目の質疑を回答）

⑤ 義務教育学校のデメリットについて

児童生徒からの聞き取りで、デメリットは何かあったのか。

回答 昨年の視察時、大沼（岳陽学校）の実施した児童生徒へのアンケートではデメリットは確認されないとのことであったが、本日の資料の中に、メリット・デメリットの表が添付されており、適正配置計画と義務教育学校、現状維持について、それぞれメリット・デメリットをお示しした（以降、資料に沿って詳細を説明した）

意見 制度が始まったばかりでわからないことも多いが、基本的にはこういった新しいことをやっていくことには賛成している。

⑥ 本室蘭中学校の活用について

学校が1つになった場合、おそらく白蘭小を活用すると思われるが、本室蘭中学校のグラウンド、体育館、音楽室など、まだまだ使えると思うが、何か活用を検討しているのか。白鳥台地区は「きらん」等の施設から距離的に遠いので、地域に貸出しなど開放していただけるとありがたい。また、部活動も中学校を使えばできる範囲も広がるので、本室蘭小学校のような形にはしないで、多少補修してでも、地域の人や子どもたちが有効に使えるようにしてほしい。

回答 過去の活用例として、旧知利別小跡地は宅地にしたが、今後、いろんなアイデア、地域の方等のご意見を伺いながら、活用等について検討していきたい。

また、地域への開放に関して、コミュニティースクールを推進することで学校と地域との距離をもう少し密接にさせて頂きたいと考えている。室蘭西中とロータリークラブの連携の事例（外国人留学生が多国籍料理を西中で調理し、生徒に振る舞う）も今月計画しているので、地域の方々も学校の活用を考えていただき、ご協力を。

⑦ 義務教育学校について（意見）

子どもが現在中３だが、入学する時にちょうどコロナが流行りだして、行事などが出来なくなり、環境が変わることに対してクラス全体が馴染むことが難しく、とても時間がかかったように思えた。義務教育学校であれば、小学校時代の馴染みの先生が同じ校舎にいてくれると安心でき、中１ギャップが少なくなり、スムーズに中学校に移行できたのではないかなと思っているので、この義務教育学校については、白鳥台地区に合っていると思うし、クラス替えは元々できないので、そういう欠点はあまり関係ないので、ぜひ進めていただければと思っている。

回答　（義務教育学校を推進することは）中１ギャップの解消を目的とした良い施策と認識している。

⑧ どのような特色のある学校を目指していくのか

義務教育学校を目指していく中で、何か特色のある学校づくり、この学校に通いたいというような、何かメリットのある教育体制をつくっていく考えはあるのか。

回答　皆さまと共に輝く学校にしていきたい。特色ある教育として、例えば英語教育に力を入れるなども考えられる。子どもたちはこの学校に通わせて良かったと思う学校、保護者はこの学校に通わせて良かったと思う学校にしていきたい。

⑨ 教員の免許について

小中両方の免許を持っている先生を集めるために最大限努力をすると説明があったが、仮に集められなかった場合は、片方の免許だけの先生が教える形になるのか。また、片方の免許で教えることになったとしても、新たに免許が取得できるように勉強していくという形になるのか、教えていただきたい。

回答　例えば中学校のみの免許を保有している教員が小学校を教える場合は、経験値のある小学校の教員との協議、連携により、可能な限り専門的な学習を提供していきたい。また市教委としてもサポートしていきたい。

⑩ 今後の義務教育学校の具体的な考えについて

市教委の理想はあると思うが、具体的にこうしていきたい、という案はまだ決めてないのか。

回答　義務教育学校設置は、まだ正式には決定していない。そのため、特色などは正式決定した後に検討していく。例えば、先ほど髙田より、大沼（岳陽学校）では英語教育が挙げられたが、地域にあった特色のある学校づくりを進めていきたい。

⑪ 義務教育学校とするという決定や具体的な内容については、今後決定していくのか

質問 義務教育学校が令和７年度スタートなのか。

回答 義務教育学校の設置が正式に決まった訳ではない。仮定の話として、時間的に準備等を考えて最短で令和７年度に開校が実現できるのではとの説明をした。

質問 では、具体的なことは決まってないのか。

回答 具体的にはまだ決定していない。

質問 そうすると、学校が一つになると言うことも未定なのか。

回答 教育委員会としては義務教育学校でやりたいと説明している。先月、白鳥台地区あたらしい学校教育推進協議会を立ち上げて、義務教育学校を含めた今後の学校教育、学校の形などについて正式に検討頂いているところ。

質問 検討と言うことは、義務教育学校にならない場合もあるのか。

回答 可能性としてはある。

質問 義務教育学校ができないと教員増（2 名）はないのか。

回答 その通り。

⑫ 本市の子どもたちの４つの課題について

質問 市の４つの課題については、今の時点から頑張っていただきたい。特にいじめの問題については、旭川市の件もあるので、しっかりと対応していただきたい。

回答 いじめ、子どもの安全に関することなどは年度を待たずに適切に対処していく
今年度いじめ対策審議会を立ち上げた。いじめ発生への対応に加え、未然防止の指針の策定も進めているところ。

意見 小中一貫教育と義務教育学校を同じ考え方として捉えており、これが実現することを切に希望している。

回答 単に小学校と中学校を足しただけの学校と言うことでは無く、小中一体となることで、単に足しただけでは無くそれ以上の大きな力を持った学校を作っていきたい。

⑬ 子どものコミュニケーションについて

義務教育期間の９年間は上手くやっていったとしても、例えば高校に進学した際に人間関係で苦労したという話しを聞くが、大沼（岳陽学校）の生徒で高校進学後に人間関係で苦労したなどの事例はあったのか。例えば、中学校で他校の子ども達とコミュニケーションを図れるような行事などがあると違ってくるのではないかと思う。

回答 これまで適正配置計画を進めてきたが、学校課題が残っている。この地区は地理的な問題により、移動（通学時間）に関する問題もある。また、高校進学に関わるギャップの問題についても本市教委内でも検討した。
地域との触れ合いを増やして、コミュニケーションの機会を作っていきたい
また、他校の子ども達とコミュニケーションについては、例えば合同部活動などを検討している。

⑭ 教員の免許について

現段階で小中両方の免許を保有している教員は、市内で何人いるのか。

回答　手持ちの資料がないため回答は難しいが、教育大学を卒業している教員は小中の免許を保有しているととらえている（説明会後、「小中の免許保有者は、小学校で約 6 割、中学校で約 3 割 5 分」と質問者へ回答済み）

⑮ 教員数について

義務教育学校になった際は、先生の人数はどのくらいになるのか。

回答　一般教員は通常学級で 16 名、特別支援学級で 10 名と計算している。
仮に義務教育学校となった場合、現在の職員数から減ることはないと考えている。

白鳥台地区のあたらしい学校についての室蘭市教育委員会の方針（案）

１　検討の経緯

「室蘭市これからの学校づくり検討委員会」の報告書（令和４年８月２４日）により、白鳥台地区に義務教育学校の検討を進めると良いとの提言を受けたことから、市教委としての白鳥台地区のあたらしい学校の形の方針を示すもの。

「白鳥台地区あたらしい学校教育推進協議会」

「白鳥台地区の学校教育に関する地域住民説明会」

２　室蘭市教育委員会として目指すあたらしい学校の形

市教委としては、白鳥台地区のあたらしい学校の形は、本室蘭中学校と白蘭小学校を１つにした「義務教育学校」としたい。

３　あたらしい学校の場所

白鳥台地区のあたらしい学校「義務教育学校」の場所については、白蘭小学校の敷地、校舎、体育館を使用することを基本とする。

４　あたらしい学校を設置する時期

白鳥台地区にあたらしい学校「義務教育学校」を設置する時期については、令和７年４月の開校を目指す。

５　あたらしい学校設置に向けた組織体制

(1)　新たに「（仮称）白鳥台地区義務教育学校設置推進協議会」を設置し、学校施設の改修内容、学校の運営方法等について、保護者、地域と協議を進める。

(2)　小中学校に「（仮称）白鳥台地区義務教育学校設置作業チーム」を設置し、教職員同士の意思統一、あたらしい教育課程の編成、あたらしい学校運営方法等の策定作業を進める。

(3)　(1)及び(2)の合同開催や、部会設置などにより、相互連携や情報共有を図り、ベクトルを合せて、あたらしい学校設置を進める。